

令和7年度 中町北小学校スクールプラン

日本国憲法
教育基本法
学習指導要領

学校教育目標
人権尊重の心を持ち
仲間とともに 意欲的に学ぶ
ふるさと大好き 中北っ子の育成

児童の実態
保護者・地域の願い
時代や社会の要請

めざす学校像

受容的・共感的・肯定的な風土のある学校

めざす児童像

素直さと感謝の心を持ち あいさつでつながる中北っ子

努力目標

- 豊かな心の育成
 - ・「命と人権」の尊重を根底に、いじめ防止基本方針をもとに、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に向けた「学校生活相談シート」「中北っ子7つの約束アンケート」の実施
 - ・「心の健康教育」の推進
 - ・児童会の取組と連携し、「あいさつ運動」を推進するとともに、ていねいな言葉遣いができ、自他ともに大切にできる子どもの育成
 - ・本校の伝統および多可町の「人・もの・こと」を活用した「ふるさと愛」の醸成
 - ・「考え、議論する道徳」の授業を通じた道徳性の育成
- 確かな学力の育成
 - ・「多可町学力向上3か年計画」「中北学力向上プラン」に基づく学力向上
 - ・「中北学びスタンダード」をベースとした学びの環境整備
 - ・児童の学習意欲を高め、「わかる・できる」授業の充実
 - ・各教科等で言語活動の充実を図り、「ことばの力」を育成
 - ・家庭学習（15分×学年）・家読の習慣化・朝の学習・がんばりタイムの充実
- 健やかな体の育成
 - ・「早寝・早起き・朝ごはん」、「基本的な生活習慣」の確立
 - ・楽しみながら取り組む体力づくり
- 信頼される開かれた学校づくり
 - ・学校の情報をタイムリーに発信し、地域や保護者の声に耳を傾ける
 - ・PDCA サイクルによる学校評価の活用
 - ・地域人材の積極的な活用
- 安全・安心な学校づくり
 - ・学校防災体制の充実
- 働きやすい職場環境づくり
 - ・「学校の働き方改革」の推進による子どもと向き合う時間の確保

研究主題

わかった!できた!から 自ら学ぶ姿へ

～確かな学力の育成をめざした中北学力向上プランの構築とその実践～

○磨き合い支え合う学級集団づくり

- ・基本的な学習規律や学習態度の育成
- ・一人一人の良さを生かした支持的風土の学級づくり
- ・自尊感情の育成

○「わかる・できる」実感のある学習

- ・児童の学習意欲を高める授業を創造し、基礎基本となる知識・技能の習得と、思考力・判断力・表現力等の活用力の育成
- ・家庭学習の習慣化による自学力の育成と学力の定着

プロとしての自覚と誇りを持つ教職員

- ・授業力向上 ・基本的接遇 ・組織的な対応 ・健康の維持 ・安全・安心への備え

家庭・地域・関係機関との連携

- ・学校の情報発信 ・地域と連携した教育活動の推進 ・PTA、関係機関等との連携

ひょうご教育創造プラン(第4期・令和六年度～十年度)
兵庫が育む「こころ豊か」で自立する人づくり
「『絆』を深め、『在りたい未来』を創造する力」の育成

多可町教育ビジョン(令和三年～七年)
明日の多可町を担う「こころ豊かな人づくり」
ふるさと多可町を愛し、自らの夢や目標に向かってたくましく生きるこころ豊かな人づくり

令和7年度 中町北小学校学校経営方針

1 学校教育目標

人権尊重の心を持ち 仲間とともに 意欲的に学ぶ ふるさと大好き 中北っ子の育成

2 めざす学校像

受容的・共感的・肯定的な風土のある学校

- ◎子どもたちが学ぶことを楽しむ学校
- ◎教職員が勤務したことを誇りに思う学校
- ◎保護者や地域の方々の信頼に応える学校
- ◎「あいさつ」・「ありがとう」・「ていねいな言葉」に溢れる学校
- ◎誰一人取り残されず、すべての児童の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた学校

3 めざす児童像

素直さと感謝の心を持ち あいさつでつながる中北っ子

◎あいさつは いつでも どこでも だれにでも ◎ていねいな言葉遣い

4 教職員信条(教職員の資質目標)

プロとしての自覚と誇りを持つ教職員 ～組織力の向上～

☆信条高揚のための努力目標

- ・深い専門性と豊かな人間性を培う教職員研修を充実させ、授業力を高める。(授業力向上)
- ・児童の見本となる元気の良いあいさつの実践と、笑顔のある対応を心がける。(基本的接遇)
- ・「報告・連絡・相談」を密にするとともに、組織として教育活動に取り組む。(組織的な対応)
- ・心身の健康に留意し、業務改善を図りながら、日々の校務に取り組めるように努める。(健康の維持)
- ・常に最悪の事態を想定し、危機管理意識を高める。(安全・安心への備え)

5 本年度の具体的な取組(◎重点項目)

(1) 確かな学力の育成

- ◎全国学力・学習状況調査等の結果を分析し、日々の授業改善に生かすとともに、「多可町学力向上3か年計画」「中北学力向上プラン」に基づいた計画的な取組を通して、児童に基礎的・基本的な学習内容の定着を図り、これらを活用して課題解決に向かう思考力・判断力・表現力等の活用力の育成に努める。
- ◎「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善の取組を推進する。
- ◎「ひょうごつまずきポイント指導事例集」等を活用し、児童のつまずき解消を図るとともに、系統性を見据えた指導の充実に努める。
- ◎各教科等において、「書く」「発言する」「考えを深める」等の言語活動を積極的に取り入れ、「ことばの力」を高めることを通して、コミュニケーション能力の育成に努める。
- ◎プログラミング教育の年間計画に沿った取組を推進し、児童の論理的な思考を高める。
- ・「家庭学習の手引き」や「家庭教育支援冊子」を有効活用するとともに、家庭学習強化週間の取組を推進し、家庭学習習慣(15分×学年)や家庭読書の定着を図る。
- ・朝の学習の継続、放課後がんばりタイムの実施、読書活動の充実等、学力向上を支える取組を推進する。
- ・OJTを進め、保護者や地域の信頼に応えられる深い専門性と豊かな人間性を培う教職員研修を充実させる。

(2) 豊かな心の育成

- ◎「命と人権」の尊重を根底に、「いじめ防止基本方針」に基づく「学校生活相談シート」「中北っ子7つの約束アンケート」を行い、日々、教職員間で情報共有しながら、いじめの未然防止・早期発見・早期対応の取組、いじめを許さない取組を教職員の協働体制のもと組織的に推進する。
- ◎一人一人の児童の居場所がある学級づくり、安心して学べる環境づくりに努めるなど、不登校を予防する取組を推進するとともにアイアイルーム(校内サポートルーム)を設置し、支援を必要とする児童の居場所作りに努める。

- ◎「あったか集会」「赤ちゃん先生の取組」「いのちの授業」「いじめ防止授業」「人権教育コアカリキュラムの実施」等の取組を通して、人権尊重の心を培う。
- ◎子どもたちが日常のストレスチェックを行い、対処法等について学ぶ「心の健康教育」を推進する。
- ◎生活指導の取組として、「あいさつ」と「ていねいな言葉遣い」に重点を置き、児童会による「あいさつ運動」等の取組を推進するとともに、「あいさつ名人」の表彰を行い、誰もが安心して生活できる仲間関係の構築に努める。
- ◎特別支援教育コーディネーターを中心に、特別な支援を要する児童の実態把握、組織的な校内支援体制の構築、保護者や関係機関等との連携を図り、一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実に努める。
- ◎校内研修等の機会を捉えて道徳科における教員の授業力向上に努めるとともに、「考え、議論する道徳」の授業づくりを通して児童の道徳性の育成を図る。
- ・「わんぱく班遊び」「わんぱく班掃除」等の縦割班活動を通して異学年交流などの取組を進め、児童の多様な人間関係の構築とともにリーダーシップや自己肯定感、自己有用感の高揚を図る。
- ・各学年の発達段階に応じ、多可町の「人・もの・こと」と関わり合うふるさと教育に取り組み、「学校愛」や「ふるさと愛」を育む。
- ・「キャリアノート」を活用し、児童が将来の夢や目標を持ち、具体的に計画を立て、それに向かって自立して進んでいく力を育成するキャリア教育に取り組むとともに、児童一人一人の良さや可能性を見つけ、積極的に認めることを通して自尊感情を育む。

(3) 健やかな体の育成

- ◎「月目標」の徹底や振り返り等の取組を推進し、基本的な生活態度や生活習慣の育成に努める。
- ◎体育の時間等を中心に、モジュールトレーニングとして中北サーキット等に取り組ませ、筋力・走力・跳躍力等、児童の体力向上を図る。
- ◎「家庭教育支援冊子」等を有効活用し、保護者や地域との連携を図ることを通して、「早寝・早起き・朝ごはん」等の基本的な生活習慣の確立と定着を推進する。
- ・給食センターや健康課等の関係機関との連携を強化し、食育や健康教育の推進に取り組む。

(4) 信頼される開かれた学校づくり

- ◎「学校だより」やHP等を通して学校の情報を発信するとともに、保護者や地域の願いを受け止め、地域ボランティア組織の拡大を図り、保護者や地域住民の学校教育への参画と協働を推進する。
- ◎学校運営協議会（コミュニティスクール）等を活用し、学校組織マネジメントのPDCAサイクルをもとに、学校評価を生かした教育活動の改善や充実に取り組む。
- ・校務分掌組織をもとに、チーム力を発揮し、課題に組織的かつ迅速に対応する。
- ・認定こども園、中町中学校、北はりま特別支援学校など他校園種との連携を進め校種間の円滑な接続を図る。
- ・教職員として服務規律の確保、研修と修養に努め、専門性と実践的指導力の向上をめざす。
- ・地域や保護者の声に耳を傾け、協働して学校教育活動を行う。

(5) 安全・安心な学校づくり

- ◎震災や水害の教訓を踏まえ、引き渡し訓練や避難訓練等を行い、学校防災体制の充実に努めるとともに、児童に自分の命は自分で守る危険回避能力等を身につけさせる。
- ◎定期的な校内安全点検を実施し、事故等の未然防止に努める。
- ・見守りボランティア等と連携し、児童の登下校の安全確保に努める。

(6) 働きやすい職場環境づくり

- ◎「学校の働き方改革」を推進し、教職員の意識改革や業務改善を図るとともに、教職員定時退勤日の設定等を通して多忙感の解消に努め、児童と向き合う時間の確保を図る。
- ◎「統合型校務支援システム」の活用により教職員の校務負担を軽減し、教職員がゆとりを持って教育活動に取り組む環境づくりを推進する。
- ・ハラスメントのない職場環境づくり、メンタルヘルスの保持増進等に努め、明るく風通しのよい職場づくりを推進する。
- ・年次休暇の計画的な取得を促進し、「ワーク・ライフ・バランス」の推進に努める。